



# 学校だより2月号

【学校教育目標】「力を合わせ 笑顔が光る日限の子」

令和4年1月31日  
横浜市立日限山小学校  
〒233-0015

港南区日限山二丁目16番1  
TEL 045(841)6561

## 「立春」を迎えるにあたって

副校長 武石 博行

早いもので2月を迎えようとしています。相変わらず厳しい寒さの日が続いていますが、子どもたちは、校庭での体育や休み時間に元気いっぱい活動をしています。3年生昇降口前の梅の木をふと見ると、小さな赤い花が咲いていました。寒さの中にも確かな春の便りを見つけることができ嬉しくなりました。

先日、5年生の子どもたちがわらで作ったわら細工を職員室に持ってきてくれました。舞岡公園の田んぼで収穫した稲から作ったそうです。作り方の説明文と一緒に職員室の入口に飾りました。昔は、稲わらでいろいろなものを作っていました。5年生の子どもたちと舞岡・やとひと未来の方々や保護者ボランティアの皆様が一生懸命育てた稲で作った飾りです。小さな飾りの中にたくさんの人の思いが込められていて何か特別なご利益がありそうなので、しばらくの間飾らせてもらおうと思っています。



さて、2月4日は、「春が立つ」と書いて春の季節の始まりとされる「立春」です。また、二十四節気では、この立春が一年の始まりとされています。そして、立春の前日が、「季節を分ける」という意味の「節分」です。季節の変わり目には邪気（鬼）が入りやすく、年の終わりに病気や災害などの邪気を追い払い、新しい年の無病息災を願うために豆を撒くと言われていました。最近では、幸運を招く方角を向いて恵方巻を食べる風習も人気がありますが、今でも節分に豆撒きをするご家庭も多いのではないのでしょうか。

私が子どもの頃も家族全員で豆撒きをしていました。しかし、今になって思い返してみると、普段は玄関に飾ってある秋田県のなまはげのお面を親が被って追いかけてくるので、豆を撒いて追い出すどころか、泣きながら逃げ回っていたことが一番の思い出です。それぞれのご家庭にも節分の思い出などがあることと思います。

現在、猛威を振るっているのは「コロナウイルス鬼」です。なかなか手ごわい鬼ですが、いつでも元気いっぱいな子どもたちの表情を思いながら今年も豆撒きに励みたいと思います。そして、5年生が作ったわら細工のご利益にも期待しながら、もうすぐ日限山小に訪れる春が、心温まる穏やかな季節になることを願っています。

